

平成29年度

事業計画書

公益財団法人広島平和文化センター

目 次

事業計画書

1	基本方針	-----	1
2	主要事業	-----	1
3	事業計画	-----	2
	(1) 公益目的事業 1 (平和推進事業)	-----	2
	(2) 公益目的事業 2 (国際交流・協力事業)	-----	1 6
	(3) 収益事業等	-----	1 9

事業計画書

事業計画書

平成29年度公益財団法人広島平和文化センター事業計画書

1 基本方針

公益財団法人広島平和文化センターは、昭和51年4月の設立以来、広島
の被爆体験を根底に据え、世界平和の推進と人類の福祉の増進に寄与するこ
とを目的として、幅広く平和推進及び国際交流・協力のための諸事業に取り
組んできた。

平成29年度においては、これまでの諸事業をさらに発展させ、引き続き
被爆体験の継承、平和思想の普及及び国際相互の理解や友好親善の促進を図
り、広島市との連携の下、市民及び平和団体、国際交流団体等との協働によ
り一層努力していく。

また、広島平和記念資料館については、平成26年度から平成29年度ま
での4年間、広島国際会議場については、平成27年度から平成31年度ま
での5年間、それぞれ指定管理者の指定を受けており、引き続き適正な管理
運営を行っていく。

2 主要事業

[公益目的事業1（平和推進事業）]

- ・ 国内原爆展の開催
- ・ 被爆体験伝承者による伝承講話の定時開催
- ・ 平和記念資料館収蔵資料の保存措置の強化
- ・ 被爆資料の収集等の強化
- ・ 平和記念資料館再整備事業
- ・ ヒロシマ・ナガサキ原爆展の開催
- ・ 国連見学ツアーガイドのヒロシマ研修【新規】
- ・ 2020ビジョンキャンペーンの展開
- ・ 平和首長会議の体制強化
- ・ 平和首長会議インターンシップ
- ・ 青少年「平和と交流」支援事業
- ・ 原爆死没者の氏名・遺影の登録・公開
- ・ 被爆体験記の朗読事業

[公益目的事業2（国際交流・協力事業）]

- ・ 国際交流・協力の日の開催
- ・ 外国人市民の総合相談窓口事業

3 事業計画

(1) 公益目的事業1（平和推進事業）

ア 被爆体験継承普及事業

(ア) 修学旅行生への被爆体験講話等（予算額：703万7千円）

a 被爆の実相を次の世代に正しく伝え、平和意識の高揚を図るため、修学旅行生を始めとする国内外からの来訪者などを対象に、学校等からの依頼を受けて、被爆体験講話や被爆体験伝承講話の実施、原爆記録ビデオの上映等を行う。

- ・ 受講件数：約2,000件

b ヒロシマの心を伝えるとともに、被爆体験継承の推進を図るため、8月6日を含む夏休み期間に、平和記念公園を訪れる人々へ、事前予約不要かつ無料で被爆体験講話を聴く機会を提供する。

- ・ 時期：平成29年8月
- ・ 実施回数：18回程度
- ・ 場所：広島平和記念資料館、広島国際会議場

(イ) ヒロシマ・ピース・ボランティア事業（予算額：292万1千円）

被爆体験継承の推進を図るため、ボランティアによる広島平和記念資料館の展示、平和記念公園内の慰霊碑等の解説を行う。

- ・ ボランティア登録者数（平成29年3月1日現在）：229人

(ウ) 被爆者証言ビデオの制作（予算額：204万1千円）

広島県内在住の被爆者の証言映像を記録し、保存するとともに、被爆の実相を国内外の次の世代に継承するため、複製したDVD等の貸出しやインターネット上での公開などを行う。

- ・ 収録人数：約10人
- ・ 平成28年度までの収録本数：1,095本

(イ) 被爆体験証言者交流の集いの運営（予算額：14万8千円）

被爆体験継承活動を行っている団体の活動の質を高めるため、団体相互の情報交換と学習を深める研修会等を行う。

- ・時 期：未定（全体会議2回、研修会2回）
- ・場 所：広島平和記念資料館
- ・対象者：全体会議 団体の代表者（18団体）
研 修 会 団体の会員、一般市民（各回とも定員312人）

(オ) 平和文化センターインターンシップ事業（予算額：39万円）

国内外の学生、生徒などを実習生として受け入れ、就業体験を通して被爆地ヒロシマについての理解を深める機会を提供する。

- ・受入期間：1人につき3日～3か月程度
- ・受入人数：約20名

(カ) ヒロシマ・ピースフォーラムの開催（予算額：50万5千円）

市民が「平和の原点」としての「ヒロシマ」を見つめ直し、原爆や平和について考え、どのように行動していけばよいかを探求する機会を提供するため、広島市立大学と連携し、連続講座を開催する。

- ・時 期：平成29年5月～7月（土曜日、全6回）
- ・場 所：広島平和記念資料館
- ・対象者：18歳以上で広島市内に在住又は通勤・通学している人
- ・定 員：100人（広島市立大学の履修生50人程度を含む。）

(キ) 国内原爆写真展用資料の普及・活用（予算額：72万6千円）

被爆の実相を伝え、平和意識の高揚を図るため、原爆展を開催する国内の学校や各種平和団体、自治体等へ原爆写真ポスター・パネルの貸出しを行う。

- ・貸出点数：約160点

(ク) 中・高校生ピースクラブの開催（予算額：228万2千円）

被爆の実相を学び、平和に対する見識を高めるとともに、自ら平和を目指して取り組む力を養い、平和を推進していく人材の育成を図るため、被爆の実相等を学ぶ講座やワークショップなどの学習の場を提

供する。

- ・時 期：通年
- ・場 所：広島平和記念資料館など
- ・対象者：中学1年生～高校3年生（定員40人）

(ケ) 平和学習講座（予算額：27万5千円）

被爆の実相や核兵器廃絶への取組などについての理解を深めるとともに、自ら平和に取り組む意識を醸成するため、講師を小・中・高等学校等に派遣し、平和学習を実施する。

- ・講 師：10人（平成29年3月1日現在）
- ・実施回数：約80回

(コ) 平和記念資料館学習ワークブック等の作成（予算額：400万2千円）

修学旅行生等が、広島平和記念資料館の見学を通して、より効果的に被爆の実相を学び、平和を目指す自主的な取組につなげることができるよう、また、広島市への修学旅行誘致及び資料館入館者増加対策の一助として、「広島平和記念資料館平和学習ワークブック」、「広島平和記念資料館学習ハンドブック」、「平和記念公園めぐり」を作成し、配付する。

- ・作成予定部数

①広島平和記念資料館平和学習ワークブック

小学生用 160,000部

小学生指導者用 40,000部

中・高校生用 150,000部

中・高校生指導者用 35,000部

②広島平和記念資料館学習ハンドブック

小学生用 225,000部

中・高校生用 225,000部

③平和記念公園めぐり 50,000部

(ク) 国内原爆展の開催（予算額：1,565万4千円）

被爆の実相を伝え、核兵器廃絶に向けた国内世論を醸成するため、国内各地において原爆展を開催する。

- ・時 期：平成29年7月～9月
- ・場 所：沖縄県糸満市・沖縄市・石垣市

(シ) 原爆展・平和学習用資料の普及・活用（予算額：95万5千円）

被爆の実相を伝え、平和意識の高揚を図るため、国内の学校や各種平和団体、自治体等へ原爆展・平和学習用資料の貸出しを行う。

- ・貸出点数：約1,200点

(ス) 英語で伝えようヒロシマセミナー（予算額：5万5千円）

被爆の実相を正しく英語で伝えるため、原爆被害の概要及び英語での表現方法について学ぶ場を提供する。

【高校生】

- ①対 象：留学又は渡航予定の高校生（希望者を含む。）
- ②実施回数：3回程度
- ③定 員：約100人／回

【一般】

- ①対 象：留学又は渡航予定者（希望者を含む。）及び海外からの留学生又は渡航者を受け入れている家族等
- ②実施回数：2回程度
- ③定 員：約100人／回

(セ) 旧日本銀行広島支店での平和記念資料館収蔵品の展示（予算額：287万4千円）

広島平和記念資料館以外の場所で被爆の実相に触れる機会を提供することにより、より多くの人に被爆者の体験や平和への思いを共有してもらうため、旧日本銀行広島支店で、被爆資料や「市民が描いた原爆の絵」、米国国立公文書館所蔵写真などの平和記念資料館収蔵品の展示を行う。

- ・時 期：平成27年7月～平成30年3月（予定）

(ソ) 被爆体験伝承者による伝承講話の定時開催（予算額：359万1千円）

広島平和記念資料館において、来館者等を対象に、事前予約不要かつ無料で被爆体験伝承者による講話を定時開催する。

- ・実施回数：原則毎日3回（日本語2回、英語1回）

(ク) 平和記念資料館収蔵資料の保存措置の強化（予算額：1,535万円）

経年劣化が懸念されている収蔵資料のうち、最も危険な状態にある写真資料や再整備後に常設展示を予定している被爆資料から順に劣化状況の調査と必要な保存措置を講じるとともに、収蔵庫と展示室の環境についても調査を行い、改善を図る。

また、同様に経年劣化が課題となっている、アナログ方式で記録された被爆者証言ビデオのデジタル化等を行う。

(ケ) 被爆資料の収集等の強化（予算額：751万7千円）

a 被爆資料の収集の強化

被爆者やその遺族を訪問して、被爆状況の調査及び聴き取りを行い、資料の寄贈を呼び掛けるとともに、海外の博物館・図書館などを訪問して、被爆関連写真の調査・収集を行う。また、歴代館長や元職員への聴き取り、近隣図書館や研究機関の所蔵文献の調査・複写等を行い、広島平和記念資料館の沿革に係る資料や情報を調査・収集し、展示内容や出版物の充実を図る。

b 海外博物館とのネットワークの強化

ヒロシマ・ナガサキ原爆展開催に合わせて、開催地近辺の平和をテーマとした博物館等を訪問し、資料の相互展示などの取組を共同で展開することなどの連携策について、協議・調整を行う。

・訪問先：岩の病院・核の避難所博物館（ハンガリー・ブダペスト市）など

(ツ) 平和記念資料館ボランティアスタッフ活動支援事業（予算額：218万9千円）

広島平和記念資料館の各種事業に携わるボランティアスタッフを対象に、体系的な研修を一元的かつ継続的に実施することにより、来館者等に被爆の実相などを正確かつ効果的に伝える。

・対象：ヒロシマ・ピース・ボランティア、被爆体験証言者、被爆体験伝承者、平和学習講座講師

(テ) 平和記念資料館再整備事業（予算額：7,002万3千円）

本館の展示について、展示検討会議での議論を踏まえながら、展示説明文執筆会議で説明文の執筆を進め、各国言語に翻訳するとともに、展示資料の収集を行う。

(ト) 平和・戦争に関する博物館等とのネットワーク（予算額：32万5千円）

国内の平和・戦争に関する博物館等は毎年度、日本平和博物館会議を開催し、資料・情報交換を行うとともに、ネットワーク化を図っている。今年度の会議は、沖縄県立平和祈念資料館（糸満市）で開催される。

(ト) 展示・収蔵資料等の調査研究（予算額：263万5千円）

原爆や平和問題などについて、広島平和記念資料館資料調査研究会の会員が、物理学、歴史学、国際関係学、保存科学などの分野から調査研究を行う。

イ 平和意識高揚事業

(ア) こども平和キャンプの開催（予算額：32万4千円）

平和意識の高揚を図るため、子どもたちを対象に被爆の実相や平和の大切さについて学ぶ場を提供する。

- ・時 期：平成29年6月3日(土)～4日(日)
- ・場 所：平和記念公園、似島臨海少年自然の家など
- ・対 象：小学4年生～中学3年生（定員48人）

(イ) ひろしま子ども平和の集い（予算額：101万9千円）

平和記念式典参列等のために広島を訪れる子どもたちと広島の子どもたちに、広島の地から平和のメッセージを発信してもらうことにより、若い世代の平和意識の高揚と主体的な取組の促進を図る。

- ・時 期：平成29年8月6日(日)
- ・場 所：広島国際会議場
- ・参加団体数：12団体程度

(ウ) こどもたちの平和文化活動支援事業（予算額：123万4千円）

小・中学生による多様な平和文化活動を奨励することにより、平和文化活動を活性化させ、子どもたちの平和意識の高揚を図る。

- ・内 容：平和文化活動（絵画、習字、作文、俳句、標語、工作など）を行った学校からの申請を受け、参加者全員に記念品を贈る。

(イ) 機関紙の発行等（予算額：415万6千円）

a 本財団が行う平和や国際交流・協力への取組を紹介するため、和文機関紙、英文機関紙を発行するとともに、事業報告「平和と交流」を作成し、ホームページに掲載する。

- ・内 容：和文機関紙 年3回、各6,000部
英文機関紙 年2回、各2,000部
「平和と交流」 年1回

b 本財団の活動に関する情報等をインターネットで迅速に提供することにより、情報発信機能の充実を図る。

c 日本平和学会の研究大会に出席し、平和研究の最新の成果を学ぶとともに、学会員との交流を深める。

- ・時 期：平成29年6月
- ・場 所：札幌市

(オ) 平和宣言の発信（予算額：169万7千円）

平和宣言の内容を国内外に周知することにより、核兵器廃絶に向けた国際世論を醸成し、核兵器保有国の政策変更につなげる。

- ・内 容：①平和宣言文パネル(和文、英文)の作成・掲示
- ②平和宣言読み上げの動画作成・インターネットでの発信等
 - ・平和宣言読み上げの動画の作成及び広島市ホームページでの発信（日本語・英語）
 - ・外国語8か国語（スペイン語、フランス語、ロシア語、中国語、アラビア語、ドイツ語、ハンガール語、ポルトガル語）による平和宣言文の作成
- ③平和宣言文の送付
（和文：25,000部、英文：14,000部、点字：250部）

(カ) 広島平和記念資料館ホームページ及びデータベースの管理・運用（予算額：1,890万7千円）

核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を世界に訴え、国際世論を醸成していくため、広島平和記念資料館のホームページで、原爆・平和に関する情報を発信する。

- ・内 容：①広島平和記念資料館ホームページ
資料館の利用案内、展示内容の紹介、子ども向け平和学

習ページ、平和宣言の発信、核兵器の開発・核軍縮の歩みと広島復興の歩み等の紹介

②データベースの管理・運用

資料館が所蔵、管理する被爆資料、写真、絵、動画等の原爆・平和に関する資料をデータベース化して管理し、一部をインターネットで公開

(キ) 情報資料室の管理運営（予算額：262万3千円）

平和文化の普及、高揚と被爆体験の継承を図るための調査、研究の場として、原爆・平和に関する資料・情報の収集、保存を行い、市民等の閲覧に供する。

ウ 国際平和推進事業

(7) 国際平和シンポジウムの開催（予算額：317万1千円）

市民の平和意識の高揚と平和のメッセージの発信を目的として広島市及び朝日新聞社との共催により、シンポジウムを開催する。（広島市と長崎市で交互に開催）

- ・時期：平成29年7月
- ・場所：広島国際会議場

(イ) 国連軍縮フェローズの受入れ（予算額：36万2千円）

軍縮専門家の育成を目的として、各国外交官を対象に国連が主催する「国連軍縮フェローシップ計画」の研修生（フェローズ）を受け入れ、被爆の実相等について理解を深めてもらうための研修を行う。

- ・時期：平成29年9月下旬
- ・場所：平和記念公園、広島平和記念資料館等
- ・内容：①被爆者による講話
②原爆記録映画の上映
③広島平和記念資料館、原爆ドームの視察等
- ・受入人数：27人程度

(ウ) 中国人民平和軍縮協会との交流（予算額：105万2千円）

中国の平和・軍縮分野のNGOである中国人民平和軍縮協会との交流を深めるため、訪中団を派遣し、被爆の実相とともに、核兵器廃絶

と世界恒久平和の実現を願う「ヒロシマの心」を伝える。

- ・時 期：平成29年10月
- ・訪 問 先：北京、南京、上海（予定）
- ・派遣人数：6人程度

(エ) ウェブ会議システムによる海外への被爆体験証言（予算額：22万4千円）

海外の人々に被爆の実相を伝え、核兵器廃絶に向けての国際世論を醸成するため、ウェブ会議システムによる被爆体験証言を行う。

- ・実施回数：12回程度

(オ) ピースナイターの開催（予算額：30万円）

広島東洋カープ応援の場を活用して、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けたメッセージを発信する「ピースナイター」を生活協同組合ひろしま等と共催し、平和に対する意識を喚起する。

- ・時 期：平成29年8月2日(水)
- ・場 所：MAZDA ZOOM-ZOOMスタジアム広島（広島市民球場）
- ・内 容：①球場内の原爆ドームと同じ高さ（地上25m）の座席の観客に赤色のポスターを、その他の座席の観客には緑色のポスターを掲げてもらうことにより、球場全体の緑色の中に赤色の線「ピースライン25」を作り、平和への願いをアピール
②グラウンド内で地元高校生等による「ピースパフォーマンス」の実施
③大型ビジョンでの平和を願うビデオメッセージの放映等

(カ) 国外原爆写真展用資料の提供（予算額：48万4千円）

被爆の実相を伝え、平和意識の高揚を図るため、原爆展の開催や平和学習の実施に取り組む世界各地の自治体、NGO、学校、個人等に対し、ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター及び映像資料等の貸出・提供を行う。

- ・貸出・提供点数：約200点

(キ) ヒロシマ・ナガサキ原爆展の開催（予算額：951万8千円）

被爆の実相を伝え、核兵器廃絶に向けての国際世論を醸成するた

め、海外の主要都市において原爆展を開催する。

- ・時 期：平成29年6月～11月（予定）
- ・場 所：ハンガリー・ブダペスト市など

(ク) 「広島・長崎講座」設置協力プログラム（予算額：18万4千円）

被爆体験を学問的なレベルで若い世代に継承するため、国内外の大学に「広島・長崎講座」の開設を呼び掛ける。また、新たに講座を開設した大学に対し、学識経験者や被爆体験証言者等の派遣及び教材の提供を行う。

(ケ) 国連見学ツアーガイドのヒロシマ研修（予算額：477万6千円）【新規】

常設の原爆展を開設している3か所の国連施設から国連見学ツアーガイド等を広島に招へいし、被爆の実相を理解するための研修を実施する。

- ・時 期：平成29年12月（予定）
- ・場 所：広島平和記念資料館、平和記念公園等
- ・内 容：①被爆体験講話の聴講
②広島平和記念資料館、原爆ドームの見学
③被爆の実相等の講義の聴講 等
- ・受入人数：6人程度

(コ) 平和首長会議の運営（予算額：822万8千円）

平和首長会議の運営を通じ、核兵器廃絶に向けた国際世論を喚起する。

- ・内 容：①核兵器廃絶に向けた世界の都市への連帯の呼び掛け
②ニューズレター・メールマガジンの発行
③加盟都市の活動内容の収集とホームページでの公表
④広島市・長崎市の平和宣言の加盟都市への送付
⑤加盟都市データベースの運用保守 等
- ・平和首長会議加盟都市数：162か国・地域7，223都市
(平成29年3月1日現在)

(カ) 2020ビジョンキャンペーンの展開（予算額：3,936万7千円）

平成25年8月の平和首長会議総会において策定した、同年以降4

年間の具体的な取組を定めた行動計画に基づき、2020ビジョンキャンペーンのさらなる展開を図る。

- ・内 容：①NPT再検討会議第1回準備委員会等への出席
 - ・時期：平成29年5月
 - ・場所：オーストリア・ウィーン市
- ②核兵器禁止条約の制定に向けた交渉会議への出席
 - ・時期：平成29年7月
 - ・場所：米国・ニューヨーク市
- ③ロシア国内の平和首長会議加盟都市との連携強化
 - ・時期：平成29年11月
 - ・場所：ロシア・ボルゴグラード市、モスクワ市
- ④第7回平和首長会議国内加盟都市会議の開催
 - ・時期：平成29年8月
 - ・場所：長崎市
- ⑤「核兵器禁止条約」の交渉開始等を求める市民署名活動の展開
- ⑥平和首長会議加盟都市への被爆樹木の種・苗木の配付及び「平和の灯」の分火
- ⑦平和首長会議国外加盟都市へのDVD貸出
- ⑧全米市長会議との連携強化
- ⑨海外連絡員の設置
- ⑩ポスター等の作成

(シ) 平和首長会議の体制強化（予算額：767万3千円）

平和首長会議の体制強化を図るため、広島事務局の支部組織として海外の各地域グループを管轄するリーダー都市が主催する会合等に出席するとともに、近隣のリーダー都市を訪問し、意見交換等を通じて一層の連携強化を図る。

- ・時 期：未定
- ・訪問先：米国など6か国程度

(ス) 平和首長会議インターンシップ（予算額：576万4千円）

海外の平和首長会議加盟都市の若手職員等をインターンとして招へいし、平和首長会議事務局の業務に従事してもらい、事務局の国際的な業務の充実を図るとともに、帰国後に各都市で核兵器廃絶に向けた

活動の充実に努めてもらう。

- ・ 招へい期間及び人数：半年程度 2人
2週間程度 3人

(七) 青少年「平和と交流」支援事業（予算額：910万4千円）

平和首長会議の国内外の加盟都市の青少年に対し、被爆地広島で体験や交流を行う機会を提供し、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現のための人材育成と加盟都市間のネットワークの強化を図る。

- ・ 時 期：平成29年7月、8月
- ・ 人 数：40人～50人
- ・ 内 容：被爆者の体験や平和への思いなどを学び、交流を深めるために広島市内で実施する事業への参加を支援する。

(八) 第9回平和首長会議総会への参加（予算額：106万2千円）【新規】

会長都市として準備段階から閉会まで会務を統轄する。

- ・ 時 期：平成29年8月
- ・ 場 所：長崎市

(九) NPT再検討会議等への高校生派遣事業（予算額：593万4千円）【新規】

NPT再検討会議第1回準備委員会に、「核兵器禁止条約」の交渉開始等を求める署名活動に従事している高校生を派遣し、ヒロシマのメッセージの発信や平和のアピール等を行ってもらう。

こうした活動を通じて、世界平和への意識と平和の実現に貢献する意欲を高めてもらい、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた将来のリーダー育成を図る。

エ 施設の管理運営

(7) 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の管理運営

＜ 厚生労働省からの受託事業 ＞（予算額：2億7,008万6千円）

a 原爆死没者の氏名・遺影の登録・公開

原爆死没者の遺影等を収集し、館内で公開する。

- ・ 収集数：氏名・遺影 約670人

（平成29年3月1日現在 累計21,583人）

b 被爆体験記の収集・整理・公開

被爆体験記を収集・整理（データベース化）し、館内で公開する。
また、テキストデータ及びイメージデータ化を推進する。

・収集数：被爆体験記 60編、図書 140冊

〔平成29年3月1日現在 累計148,014編
（うち公開数 135,718編）
（図書に掲載されたものの編数を含む。）〕

c 企画展の開催

所蔵する被爆体験記の中からテーマに沿った被爆体験記を選ぶとともに映像資料を制作して企画展を開催する。なお、映像資料については、平和学習資料としてDVDの貸出しを行う。

・時期：平成29年1月1日(日)～平成29年12月29日(金)

・テーマ：「原爆体験記—ヒロシマ原点の記録—その2」

・展示内容：被爆から5年後の1950年、広島市は核兵器のない平和な世界を築こうと初めて市民から原爆体験記を募集し、多数の応募があった。日本はまだ占領下であり、まとめられた「原爆体験記」は、広く配布されず、倉庫に眠ったままとなった。被爆からわずか5年後に書かれたヒロシマ原点の記録、生々しい記憶を基に記された体験記を通して、戦争や原爆の悲惨さ、平和への思いを伝える。
(被爆体験記17編、関連資料20点)

d 被爆者証言ビデオの制作

広島県外在住及び国外在住被爆者の証言を映像として記録して保存するとともに、国内外に被爆の実相を伝えるため、館内及びインターネット上で公開などを行う。

・収録人数：33人程度

・平成28年度までの収録本数：394本

e 被爆体験記の朗読事業

若い世代へ被爆体験を継承するため、修学旅行などで広島を訪れる児童生徒を対象とした朗読会や来館者が自由に参加できる定期朗読会、広島市内及び近郊の学校、公民館等での出前朗読会など

を開催するほか、国内外の原爆展においても朗読会を開催する等協力を行う。また、独自で被爆体験記朗読会を行う団体等に朗読セットの貸出しを行う。

- ・朗読会開催回数：約250回
- ・朗読セット貸出件数：約30件

f 広島平和学習セミナーの開催

平和学習を目的として多くの修学旅行生に来館してもらうため、広島市と共同で学校関係者及び旅行会社（教育旅行部門）を対象に広島での平和学習や体験学習などを紹介する広島平和学習セミナーを開催する。

- ・開催地：さいたま市、宇都宮市（平成29年7月予定）
- ・参加人数：各会場約40人

g 被爆体験記執筆補助

高齢などにより体験記の執筆が困難な被爆者を対象に、聞き取りや代筆を行い、被爆体験記の収集数の増加を図る。

- ・聞き取り人数：約10人（一般公募）

h 多言語化対応事業

海外から来館する多くの人に、母国語で被爆の実相を伝えるため、被爆者証言ビデオの翻訳字幕（インドネシア語・フィリピン語・ポーランド語）の作成、被爆体験記の翻訳（ベトナム語・ギリシャ語・ノルウェー語）を行う。

i インターネットによる情報提供

事業内容をホームページ上で紹介するとともに、保有する被爆体験記及び被爆者証言ビデオを掲載して広く情報提供し、被爆の実相を伝える。

j 情報展示システムの保守・管理

来館者へのサービス向上及びシステムの安全性・信頼性を確保するため、情報展示システムの保守・管理を行う。

平成29年度は情報システム機器更改に伴うシステム改修を行う。

k 施設の管理等

(イ) 広島平和記念資料館の管理運営

a 施設等の管理運営（予算額：2億9,597万円）

平成26年度から4年間、指定管理者の指定を受けており、管理運営を行う。

・平成28年度入館者数（2月末現在）：1,606,687人

b 広島平和都市記念碑（原爆死没者慰霊碑）の維持管理（予算額：38万4千円）

オ その他定款第3条に規定する目的を達成するために必要な事業

(2) 公益目的事業2（国際交流・協力事業）

ア 国際交流・協力推進事業

(7) 国際交流・協力事業への助成（予算額：88万7千円）

市民レベルの国際交流・協力の推進を図るため、広島市内で活動している国際交流・協力活動団体が、自主的に企画・実施する国外又は市内での国際交流・協力事業に対して助成を行う。

(イ) 国際交流ネットワークひろしまの運営（予算額：152万3千円）

広島市内の国際交流・協力活動団体等で構成する国際交流ネットワークひろしまを運営し、加入団体が活動しやすい環境づくりに努める。また、国際交流・協力課のホームページを活用し、国際交流ネットワークひろしま加入団体の活動情報等を発信する。

- ・内容：加入団体への情報提供等、研修室・ボランティア活動コーナーの運営、ホームステイ等のあっせん
- ・加入団体数：181団体（平成29年3月1日現在）
- ・国際交流・協力課のホームページ閲覧状況：年間38,577件（平成28年4月～平成29年2月実績）

(ウ) 国際交流・協力の日の開催（予算額：327万2千円）

広島市内の国際交流・協力活動団体間の交流を推進するとともに、市民の関心を高めるため、文化体験コーナーや、セミナー、展示、バザー等を開催する。

- ・時 期：平成29年11月19日(日) (予定)
- ・場 所：広島国際会議場、平和大通り緑地帯、平和記念公園
- ・延べ参加人数：約9,000人

(エ) 「姉妹・友好都市の日」の開催及び「ヒロシマ・メッセンジャー」の運営(予算額：467万4千円)

広島市が海外の6つの姉妹・友好都市ごとに創設した「姉妹・友好都市の日」に市民参加型の記念イベントを開催し、市民交流の一層の拡大と国際意識の高揚を図る。

また、「姉妹・友好都市の日」記念イベントの企画・立案及び進行や国際理解学習の講師として学校等に派遣する「ヒロシマ・メッセンジャー」を募集する。

a 「姉妹・友好都市の日」(6都市)の開催

- ・時 期：原則として各都市の日又はこれに近い日
- ・場 所：広島市留学生会館等
- ・内 容：各都市の文化・歴史・音楽等の紹介
- ・延べ参加人数：約10,000人

b 「ヒロシマ・メッセンジャー」の運営

ヒロシマ・メッセンジャーの募集

- ・募集時期：平成29年10月
- ・募集人数：姉妹・友好都市ごとに2人、計12人
- ・任 期：平成30年1月～12月

イ 国際化推進事業

(ア) 国際交流員による国際交流事業の実施(予算額：3万7千円)

地域レベルでの国際交流・国際理解を促進するため、学校等広島市関係機関が実施する国際交流・国際理解事業に国際交流員を派遣するとともに、国際交流員が市民からの質問や相談に応じる国際交流員の相談日を国際交流ラウンジにおいて実施する。

- ・派遣回数：30回程度
- ・相談日：12日程度

(イ) 情報誌の発行(予算額：9万7千円)

外国人のための生活・文化情報誌「HIRO CLUB NEWS」を作成・配布し、広島での生活に役立ててもらおう。また、これらの情報をインターネットでも提供する。

a 発行回数、部数

(a) 英語版

月 2 回発行、1 回当たり約 100 部

(b) 中国語、ポルトガル語、スペイン語版

月 1 回発行、1 回当たり各言語約 50 部

b 配布先

県内国際交流団体、日本語教室、広島市関係機関等

(ウ) 国際交流・協力団体との連携（予算額：34万8千円）

広島地域の国際交流・協力事業の連携・調整を図るため、公益財団法人ひろしま国際センター等関係機関との連絡会議に参加するとともに二国間団体の運営の助言や地域国際化協会の研修会等に参加する。

(イ) ボランティア通訳者の研修・派遣事業（予算額：42万1千円）

日本語での会話が困難な外国人市民の生活を支援するため、ボランティアを登録し、通訳者として必要な研修を行うとともに、要請に応じて区役所や学校、国際的会合などに派遣する。

・ボランティア登録者数：512人（平成29年3月1日現在）

(オ) 外国人市民の総合相談窓口事業（予算額：529万2千円）

日本語に不慣れな外国人市民のために多言語で対応できる相談窓口を開設し、窓口や電話での生活支援相談、生活関連情報の提供・翻訳、行政機関等への同行及び電話による通訳などを行う。

・対応言語：中国語、スペイン語、ポルトガル語ほか

・開設場所：広島国際会議場1階国際交流ラウンジ内

(カ) 外国人市民の日本語能力向上支援事業（予算額：26万円）

生活者として広島で暮らす外国人が日本語で意思疎通を図り不安なく生活できるようにすることを目標として、それぞれの日本語レベルに応じた日本語教育を実施し、外国人市民の自立と社会参画を支援するとともに、彼らにとって広島市が暮らしやすいと思うまちづくりの推進を図る。

・内容：地域日本語教室ボランティアの養成及びスキルアップのための講座を実施する。

- ・地域日本語教室の数：20団体（平成29年3月1日現在）

ウ ひろしま奨学金支給事業（予算額：1,175万4千円）

広島市内に居住し、市内の大学・大学院に在籍する私費留学生に対し経済的な問題に影響されることなく、安心して学業に専念できるよう奨学金を支給する。

- ・支給人数：30人
- ・支給金額：30,000円／月×12か月

エ その他定款第3条に規定する目的を達成するために必要な事業

(3) 収益事業等

ア 広島平和記念資料館での収益事業（予算額：8,276万円）

(7) 出版事業

「図録 広島平和記念資料館 ヒロシマを世界に」

増刷部数 約5,000部

「ヒロシマ読本」（英語版）

増刷部数 約3,000部

「被爆証言集」（英語版）

増刷部数 約2,000部

「写真集ヒロシマ」

増刷部数 約10,000部

(4) 販売事業

原爆・平和関係の図書、グッズ、DVD等を広島平和記念資料館内のミュージアムショップで販売する。

(5) 常設展示等の解説機器（音声ガイド）の貸出事業

常設展示や遺品等の詳しい解説が聴ける音声ガイド（日本語、英語）の貸出を行う。

イ 広島国際会議場での収益事業（予算額：1,137万5千円）

臨時売店等での飲物等の販売、飲料水自動販売機の設置、コピー・フ

ァクスサービス、ケータリングの手配等を行う。

ウ 広島国際会議場の管理運営（予算額：3億9,963万1千円）

- ・ 目標利用率：44.6%
- ・ 利用件数：約2,700件
- ・ 国際交流ラウンジ利用者数：約60,000人